

発達障害の理解について

2023年3月20日（月）

滋賀県発達障害者支援センター

本日のお話

1. 発達障害の特性と理解

2. 支援の考え方・工夫について

1. 発達障害の理解と特性

発達障害とは・・・

<発達障害の定義>

「発達障害とは、発達障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害 などの脳機能の障害で、通常低年齢で発現する障害）があるものであって、発達障害及び**社会的障壁**により日常生活または社会生活に制限をうけるもの」



絵本「すずちゃんののうみそ」より



生まれつき持っている脳の特徴。

物事を感じ方や考え方が違う

本人の怠慢や家族のしつけが原因ではない

*小学校1年生で発達障害の支援ニーズを持つ児童の割合

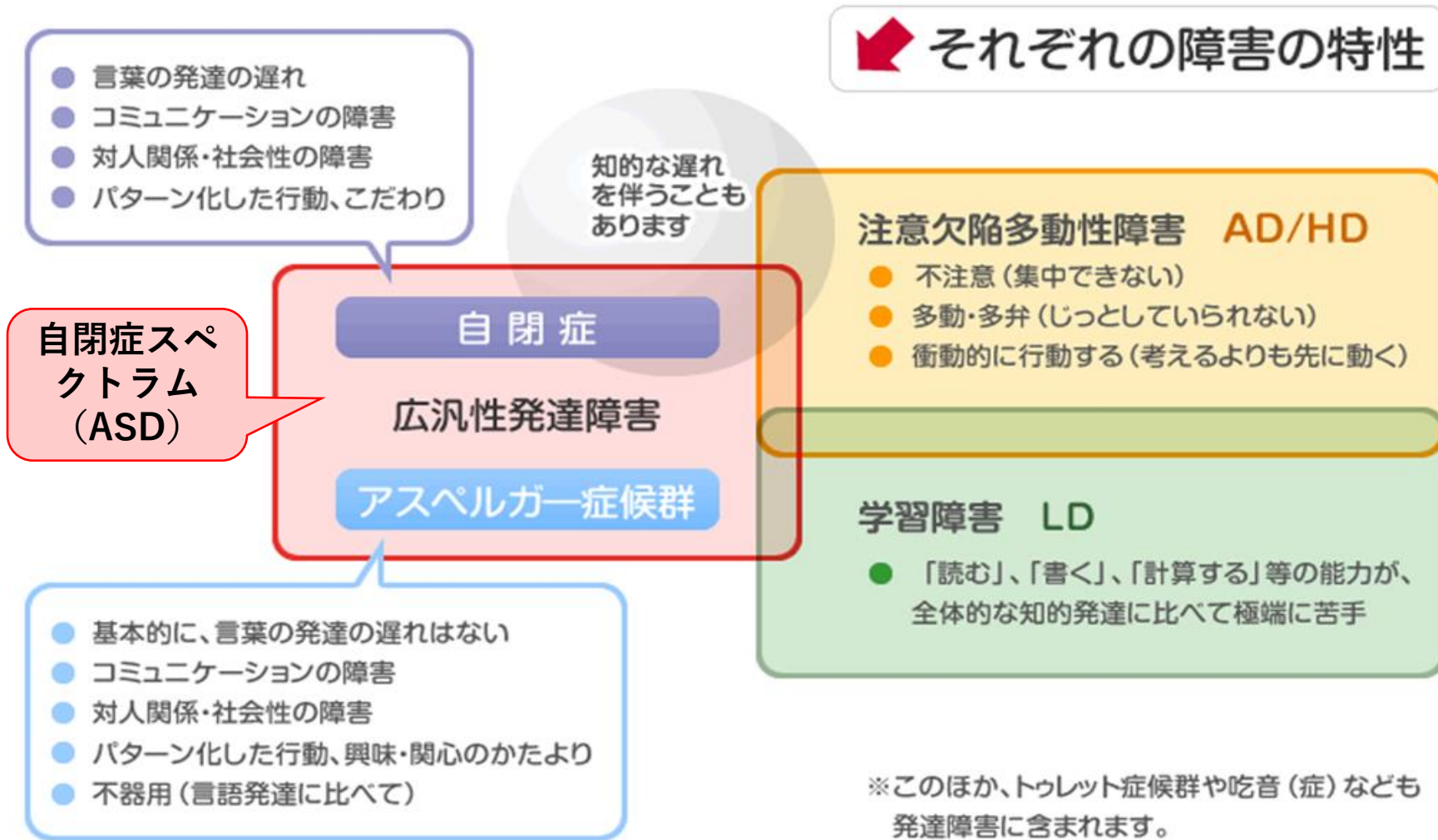
10人に1人

(平成25～27年度厚生労働科学研究

「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価」

信州大学 本田秀夫氏)

ポイント！ ➡ 特性は一人ひとり違います！
➡ まずは、どんな特性があるのか？を知ることが大切



出典：厚生労働省「発達障害の理解のために」

LD：学習障害

Specific Learning Disorder

・全般的な知的発達に遅れはないが

読む、書く、計算する、聞く、話す、推論する の

うち特定のものの習得・使用に著しい困難のある状態



ADHD：注意欠陥多動性障害（注意欠如多動症）

Attention-deficit Hyperactivity disorder

・ 不注意

忘れ物やなくしものが多い

一つの物事を最後までやりきることが難しい

注意が散りやすい・・・など

・ 多動、衝動性

体の一部をそわそわと動かし落ち着きがない

じっと座っていることができない

衝動的に行動する

感情のコントロールが難しい・・・など

ASD：自閉症スペクトラム・自閉スペクトラム症

Autism Spectrum Disorder

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚・その他の特性

ASD：社会性の特性

- 人に対する興味が薄い、ないように見える
- 自分が周囲からどのように見られているかがわからない
- 相手の気持ちを察しにくい
- 感情を共有しにくい
- 社会的なルールが身につきにくい
- 他者と一緒にいるとエネルギーを使う
- 「みんなで一緒にやる活動」に参加しにくい等



ASD：コミュニケーションの特性

- 双方向の“やりとり”が難しい
- コミュニケーション（言語・非言語）を、意味のやり取りに使うことが難しい
- 理解に関する特性
（聴覚情報より視覚情報が理解しやすい…など）
- 表出に関する特性
（自分から発信しにくい・要点を話せない…など）



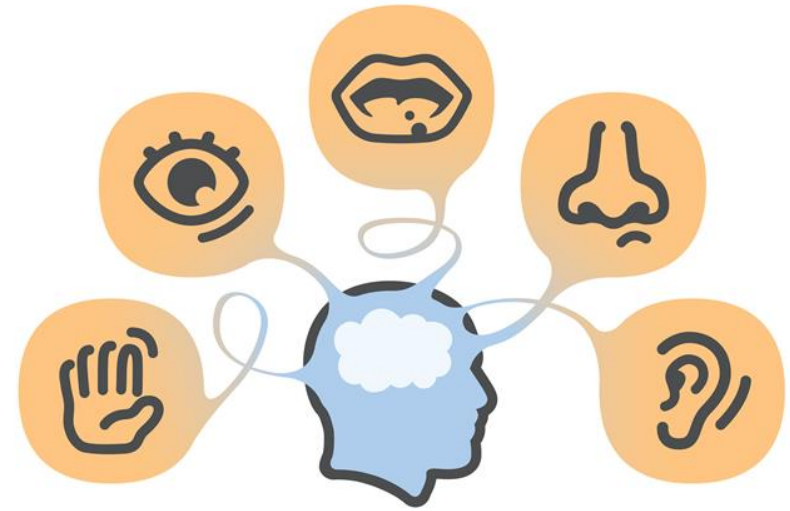
ASD：想像力の特性

- 同じ遊びを繰り返す
- 興味、関心が狭く、深い
- ルールに厳密
- 変更が苦手
- 臨機応変な対応が出来ない
- 時間の流れを理解しにくい
- 初めてのことが苦手、不安



ASD：感覚・その他の特性

- ・感覚の敏感さ・鈍感さ
視覚・嗅覚・聴覚・味覚・触覚…など



ASD：感覚・その他の特性

- ・ 注意について
- ・ 般化について
- ・ 記憶について
- ・ 感覚運動統合について・・・など



2. 支援の考え方・工夫について (まずは受け止めるために…)

周囲の受け止め方

その人の特性

適切な対応

やる気がない

状況がわからない
学習に必要な力が弱い

場面の意味がわかれば
適切に行動できる

失礼な言動が多い

距離感が理解しづらい
やりとりが苦手

ルールが分かれば守れる
文字や絵が理解しやすい

がまんが足りない

衝動性の高さ
感覚過敏
情報が多いと混乱

よけいな刺激を減らせば
わかりやすく安心

わがままだ

こだわりがある
変化が苦手

あらかじめ予定が
わかると安心

発達障害の特性に合わせた関わりかたのポイント

「困った人」ではなく「困っている人」

発達障害の特性をもつ人達は、彼らが見せる独特な言動により…

⇒ 「**困った人**」と受け取られることが多い

実際は…

⇒ 自分ではどうすることも出来ない特性に対して叱責や非難を受け、
どうしたらいいかわからず混乱している

「**困っている人**」であるかもしれない

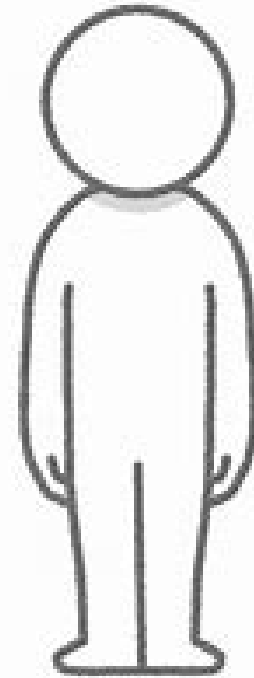


「困っている人」への支援の第一歩は**その困難さに気づいてあげること**
(困難さの背景には必ず理由がある！)

支援をする前に…

まずは、「〇〇さんってどんな人？」ということをしつかり知る姿勢を持つ。ご本人の話を聞く事に努める。

→ アセスメント



⇒ 本当の思い、行動の理由の「答え」はご本人のなかにある。
⇒ ご本人に“謙虚に”教えていただくという視点で。

その人はどんな人？

歴史

*その人がどういった生育環境をたどってきたのか、また、ものの考え方や思考の仕方、人との関係のとり方など聞くと、その方の理解につながります。

*本人だけでなく、ご家族や関係機関の方からも聞くと違う側面が見えるかもしれません。

乳幼児期	学齢期	中高生	青年期以降
<ul style="list-style-type: none">・発達の遅れが3歳未満からみられたか・発語の時期・集団に入ったときの様子。・同年代との関係・遊び方・興味関心	<ul style="list-style-type: none">・環境や変更の受け入れができたか。・同年代との関係・忘れ物など・出席状況・指示や決まりを守っていたか。・運動面の苦手さ、不器用さ・興味関心	<ul style="list-style-type: none">・教科ごと学習の様子・部活等の様子・出席状況・友達関係・いじめの有無・高校進学の際の進路の決め方	<ul style="list-style-type: none">・学習面・進路選択・履修状況・就職活動状況・アルバイト・生活状況

理解や支援の考え方 ～強みをどう活かすかを考える支援～

得意なところ ⇔ 苦手なところ

- 見て理解すること
 - 具体的なことへの理解
 - 経験したことの記憶
 - 細部に注目すること
 - 興味のあることへの集中
 - 学習したことをその場できちんとすること
- 聞いて理解すること
 - あいまいなことへの理解
 - 変化や初めてのことを想像すること
 - 全体を把握すること
 - 広く浅く興味を持つこと
 - 学習したことを応用すること

支援についての考え方は？

- 発達の特徴を理解して
- ↓
- その人に合わせた支援を考えて
- ↓
- **好きなこと、強みを活かして
できることを増やして**
- ↓
- 自尊心が高まって、安心して
自立的に生活する

- 発達の特徴を理解せず
- ↓
- 画一的な支援をして
- ↓
- できないことに注目して
苦手なことを無理にさせて
- ↓
- 不安や混乱、ストレスが高まっ
て不適切な行動が増える
(自立的な生活ができない)

出会い・受け止めるために… (相談の時の枠組みの工夫)



- * 感覚面での過敏さを持っている方もいます。
(明るさ、音、湿度、温度、人の気配)
- * 対人緊張が強い方もいます。
(正面、横並び、90度ラインに座るなど席の配置)
 - ・ 対人関係の失敗体験から、大きな声、威圧的な態度に対する拒否感を持っておられる方がいます。基本姿勢は、穏やかな声、丁寧な言葉づかい、尊重の姿勢で。
- * 面談を視覚的に伝えます。
面談の流れを提示することで、見通しが持ちやすくスムーズにすすめることができます。軌道修正、理解の補助、タイムオーバーの予防にも。

出合い・受け止めるために… 言葉のやりとりでの注意・工夫



- * 発達特性のある人は、口頭での説明や指示を聞き取って理解することは苦手な場合が多いです。
豊富な知識をもち、難しい語彙を使って一見流暢に話をする人もいますが、他者の話を正しく理解しているとは限りません。
- * 言葉の表出が苦手な方は、選択肢に○をつけたり、質問用紙に書いてもらう等の工夫も有効です。
- * その人独特の言葉の使い方や意味付けをしていることがあります。理解が難しい点は、その都度、本人に確認をとりながら進めていくとよいです。言葉の定義をお互いに確認しながら、進めていくことが大切です。

理解や支援の考え方

- できるだけ早期に発見し、支援していくこと
二次的な障害（精神的な不安定さ）が大きくなるように・・・
- 発達障害を治すことが目的ではないということ
- 発達障害の人が安心して社会・地域で暮らしていけるように支援していくこと
 - 特性に合わせた、無理のない環境で生活できるように・・・
 - 特性に応じた工夫をご本人が身につけていけるように・・・

最後に・・・

- 発達障害のある方にとって、周りの目には見えないけれども、生きにくいと感じることがたくさんあります。“**理解をしても
らえる”**ことで、**力を大きく発揮する**ことができる面もあります。
- 日々お会いする方々について、“**発達特性の視点**”をもっていただけだと思います。

ご清聴ありがとうございました。